

テ乙ニ九十六枚負ケタリト云フ各數ヘシ紙數ハ如何

$$(144 + 48) = 3$$

$$96 - (45 \times 3) + 3 \times 48 = \text{甲}$$

$$\text{甲} = 1096 = 2$$

(六七) 門司ヨリ對州ヲ經テ長崎ニ至ル船路ハ二百湮門司ヨリ長崎ヲ經テ對州ニ至ル航路ハ二百五

十八湮長崎ヨリ門司ヲ經テ對州ニ至ル航路ハ二百二十八湮ナリ長崎間ノ湮程ハ如何

$$(238 + 258) - 200 + 2 = 148$$

(六八) 米商アリ白米若干ヲ貳拾六圓ニ買ヒ入レ此レヲ壹圓ニ付五合宛利シテ悉ク賣拂ヒシニ貳圓ノ利ヲ得タリ壹圓ノ原相場如何

$$2 + (25 \times 5) \times (26 + 2) + 26 =$$

(六九) 長サ九十間ノ汽車アリ毎分二百七十間ノ速度ニテ走レル自轉車ニ追ヒ付キ三分時ニテ全ク此レヲ通過シタリ此ノ汽車毎分時ノ速度如何

$$270 + (90 + 3) =$$

(七〇) 或議員選舉ニ於テ全投票數ハ四千七百五十票ニシテ其内無効トナリシ分ヲ落選者ノ得票ニ

加フレバ當選者ノ得票ヨリ五十多ク若シ無効ノ分ヲ當選者ノ得票ニ加フレバ落選者ノ得票ヨリ八十多シ各得票如何

(七一) 甲乙二人汽車ニ乘リテ旅行ヲナス其手荷物ノ目方合セテ二百斤無賃制限外ノ目方ニ對シテ甲ハ壹圓八拾錢乙ハ壹圓ヲ拂ハザルベカラス若シ此レヲ一人ノ手荷物トセバ參圓四拾錢トナルベシ無賃制限ノ斤數如何

(七二) 米六千俵麥ノ四千五百俵ヲ貯藏セル倉庫アリ同時ニ始メ毎日米二百五十俵麥百七十五俵宛運送セシニ若干日ノ後殘リノ俵數相等シクナレリ運送ノ日數如何

(七三) 鶏卵若干アリ此レヲ若干個宛五箱ニ入レシニ六十五個ヲ餘セリ依テ尙三箱ヲ増セシニ其内一箱ハ七個不足シタリ鶏卵總數如何

$$5 + 3 \times (65 + 7 + 7 + 3) - 7 = 185$$

(七四) 汽車アリ一千五百間ノ隧道ヲ全ク通過スルニ六分時ヲ要ス又長サ百三十間ノ汽車ガ毎分二百三十間ノ速度ニテ複線上ヲ走り來ルニ出會ヒ互ニ相離レルマデハ半分時ヲ費セリ其汽車ノ長サ及ビ毎分時ノ速度如何

(七五) 一千三百間ノ隧道ヲ全ク通過スルニ五分時ヲ要スル汽車ガ鐵道ニ沿フテ毎分二百三十間ノ

速度ニテ走レル自轉車ヲ二分時ニテ追ヒ越セリ其汽車ノ長さ及ビ毎分時ノ速度如何

(七六) 兵士若干人アリ之ヲ各行各列同シ人数ニ整列セシムルトキハ百二十七人不足ス若シ各行各列ヨリ三人宛減ズレバ五十人餘ルベシ兵士ノ數如何

(七七) 學校ニ於テ生徒寄宿舎ニ配當スルニ一室ニ十二人宛トスレバ三十四人餘リ一室ニ十四人宛トスレバ四室ヲ餘スト云フ然ラバ此ノ全員ヲ全室ニ配當シ成ルベク同人數トセンニハ如何ニ定ムベキカ

(七八) 某島アリ一時間十二哩ノ速力ニテ八時間航シ一時間十一哩ノ速力ニテ九時間航シ一時間七哩ノ速力ニテ十二時間航走シ然ルニ三回ト尙六十三里餘セリト云フ其島ノ周圍ハ如何

(七九) 五里二十三町三十七間ヲ是レヲ間ニ直セヨ

(八〇) 今船内ニ若干ノ石炭ノ積荷アリ是ヲ二十一隻ノ端船ヲ以テ一隻ニ石炭十三噸四分宛陸揚セバ一日ニ四十回ノ運搬ノ後チ未ダ船内ニ殘炭三十二屯二分アルトキハ合計幾千屯アリヤ

(八一) 東西ノ兩港ヨリ相向フテ同日ニ出發セル一船アリシガ十三日目ニ於テ相會セリ但シ東港ヨリセル者ハ一日ニ十二里宛航走シ西港ヨリセル者ハ一日ニ十三里宛航走セルト云フ兩港ノ距離ハ如何

$$(12 + 13) \times 13 = 325$$

(八二) 石炭ヲ甲ノ地ニ於テ八萬二千八百七十六斤乙ノ地ニ於テ十五萬八千七百七十斤丙地ニ於テ五萬二千八百斤ヲ積載シ丁ノ地ニ到着シ其内ヨリ九萬八千七百九十六斤ヲ陸揚セバ船内ノ殘炭ハ何斤ナルカ

(八三) 某船、船客搭載シ某港ヲ出帆セントスルニ上等船客四十八人中等船客六十二人下等船客三百十七人ノ運賃合計五千六百四拾六圓貳拾五錢ニシテ上等客一人ノ運賃貳拾四圓七拾五錢下等客一人ノ運賃拾圓貳拾五錢ナリト云フ中等船客一人ノ運賃ハ幾何ナルカ

(八四) 一楹アリ長サ十尺幅二十尺高サハ幅ノ五分ノ二ナリ今其容積ヲ變ゼズシテ長サ十六尺高十尺ナルトキハ幅ハ幾尺ニシテ可ナルヤ

(八五) 某船ノ艙室ニ於ケル一個ノ時計ヲ備ヘ置キタルニ其時計ハ一晝夜ニ付十一分三十秒ヲ進ムト云フ然レバ明治四十年五月六日午前正九時ニ合シ置キ午後正四時迄ニ其時計ノ進ム時間ハ如何

$$24 \div 11.30 = 7^d \dots 24$$
$$\frac{115 \times 7}{24}$$

- (八六) 一船アリ中甲板ニ客室ヲ設備ス其長サ三間四尺幅二間二尺ノ處ニ設クルニ中央ニ長サ一尺幅四尺ノ(ボンブ)圍アリ又船首下方ノ所ニ幅二間二尺長五尺ノ處手荷物ヲ積入リタルナリ一人ノ容積九平方尺トセバ幾人ヲ乗容スルヤ
- (八七) 以入ノ石炭十萬百十二噸アリ是ヲ積入ル、約束セシニ三噸ノ不足ニ四十八噸餘レリ倉内ニ積入タル石炭ハ幾噸ナルカ
- (八八) 船舶ノ甲板上ニ長サ三十五尺幅十八尺ノ所へ經一尺五寸横八寸ノ荷物アリ此ヲ三層ニ積タレバ何個ヲ要スルヤ

- (一) 三十八人 (二) 十八人 (三) 百四十五尺
- (四) 百二十方里 (五) 四百六十四人、七呎 (六) 火曜日午前八時
- (七) 十九枚ト五里 (八) 五百十三本 (九) 三千七百五一尺五寸
- (一〇) 日曜日 (一一) 火曜日 (一二) 四百九十三圓
- (一三) 二十四分 (一四) 二斗四升五合 (一五) 甲三圓八十五錢乙七十五錢
- (一六) 午前十時半 (一七) 十湮 (一八) 十五海里
- (一九) 六十一圓二十五錢 (二〇) 八時間 (二一) 三百三十三個十八人
- (二二) 甲三千六百圓、乙二千八百圓、丙三千一百圓 (二三) 六圓
- (二四) 四十五斤 (二五) 甲五圓二十五錢、乙四圓七十五錢
- (二六) 十五湮十二湮 (二七) 第一數七、第二數二十、第三數三十
- (二八) 雀二十七羽、鳩九羽 (二九) 鴨一羽、鷄九羽、鳩二十七羽
- (三〇) 四斗一升 (三一) 五錢白銅價二百三十個、二錢銅價六百五十四個
- (三二) 五斗俵五十五俵、四斗俵百四十五俵 (三三) 男二十四人、女三十五人
- (三四) 七日 (三五) 五個 (三六) 八名

(三七) 四年

(三八) 八人 十六人

一九四

(四〇) 九百間

(四二) 百八十間

(三九) 四升

(四三) 八十錢

(四四) 五斗

(四二) 四斗

(四六) 四圓七十錢

(四七) 二圓十三圓

(四五) 八湮

(四九) 甲九十八俵、乙七十四俵

(五〇) 十六湮

(四八) 六十五錢

(五二) 二十七日

(五三) 二百六十六日

(五一) 百五頭

(五四) 千四百三十七尺、七百二十尺

(五七) 鉛筆五錢筆三錢

(五五) 三百四十間

(五六) 十四秒

(六〇) 八百九十間

(五八) 甲百圓五錢、乙四十錢

(六一) 二等損益ナシ一等貳拾錢利アリ

(六三) 梨十五個桃六十個

(六二) 父二十九歳子三歳

(六三) 梨十五個桃六十個

(六四) 三百四十四人 九隻

(六五) 五十四間

(六六) 甲六百二十四枚、乙七百二十枚

(六八) 七升

(六七) 百四十八湮

(六八) 七升

(六九) 三百間

(七〇) 當選者二千三百五十票、落選者二千三百二十五票

(七一) 三十五

(七二) 二十日

(七三) 百八十五個

(七四) 長サ百廿間速度二百廿間

(七五) 長サ百間速度二百八十間

(七六) 八百三十四人

(七七) 十二人宛 十一室 十三人宛 三十四室

◎船舶職員試験規程

(明治三十八年三月
逓信省令第二十一號)

第一章 總則

第一條 船舶職員試験ハ左ノ二十二種トス

- 甲種船長試験
- 甲種一等運轉士試験
- 汽船甲種船長試験
- 汽船甲種一等運轉士試験
- 帆船甲種船長試験
- 帆船甲種一等運轉士試験
- 帆船甲種二等運轉士試験
- 乙種一等運轉士試験
- 乙種二等運轉士試験
- 湖川港乙種一等運轉士試験
- 湖川港乙種二等運轉士試験
- 丙種船長試験
- 丙種運轉士試験
- 機關長試験
- 一等機關士試験
- 二等機關士試験
- 湖川港三等機關士試験
- 發動機船三等機關士試験

第二條 船舶職員試験ハ逓信大臣ノ指定スル管海官廳及期日ニ於テ之ヲ執行ス

前項ノ外臨時試験ヲ執行スル必要アルトキハ隨時其場所及期日ヲ告示ス

第二章 受験資格

第二條 年齢滿二十年以上ニシテ左ニ掲クル履歷ノ一ヲ有スル者ハ相當船舶職員試験ヲ受クルコトヲ得

甲種船長試験

- 一 汽船甲種船長試験ヲ受クルニ適合スル履歷及一年以上横帆裝置ノ航洋帆船ニ乗組ミタル履歷ヲ有スルコト
- 二 帆船甲種船長試験ヲ受クルニ適合スル履歷、一年以上横帆裝置ノ航洋帆船ニ乗組ミタル履歷及一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミタル履歷ヲ有スルコト

甲種一等運轉士試験

- 一 汽船甲種一等運轉士試験ヲ受クルニ適合スル履歷及一年以上横帆裝置ノ航洋帆船ニ乗組ミタル履歷ヲ有スルコト
- 二 帆船甲種一等運轉士試験ヲ受クルニ適合スル履歷、一年以上横帆裝置ノ航洋帆船ニ乗組ミタル履歷及一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミタル履歷ヲ有スルコト

甲種二等運轉士試験

- 一 四年以上遠洋航路若ハ近海航路ヲ航行スル船舶ニ乗組ミ其運航ニ從事シ其内少クモ一年ハ横帆裝置ノ帆船ニ又一年ハ五百噸以上ノ汽船ニ在リタルコト
- 二 汽船甲種船長試験
- 三 甲種一等運轉士免狀又ハ乙種船長免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗

組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
二 乙種船長免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

汽船甲種一等運轉士試験

一 甲種二等運轉士又ハ乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

二 乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

三 甲種二等運轉士免狀又ハ乙種一等運轉士免狀ヲ有シ二年以上千噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ三等運轉士トシテ執務シタルコト

汽船甲種二等運轉士試験

四年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ其運航ニ從事シタルコト

帆船甲種船長試験

一 甲種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

二 甲種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

三 丙種船長免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

四 丙種船長免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執

リタルコト

帆船甲種一等運轉士試験

一 甲種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上遠洋航路ヲ航行スル帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

二 丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上若ハ二千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

三 甲種二等運轉士免狀又ハ丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上三百噸以上若ハ三千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

帆船甲種二等運轉士試験

一 四年以上航洋帆船ニ乗組ミ其内少クモ一年ハ二百噸以上ノ遠洋航路若ハ近海航路ヲ航行スル帆船ニ乗組ミ其運航ニ從事シタルコト

二 丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上航洋帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

乙種船長試験

一 乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

二 乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

三 乙種一等運轉士免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト

乙種一等運轉士試験

- 一 四年以上百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ其運航ニ從事シタルコト
- 二 乙種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
- 三 乙種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上五十噸以上ノ汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

乙種二等運轉士試験

三年以上汽船ニ乗組ミ其運航ニ從事シタルコト

湖川港乙種一等運轉士試験

湖川港乙種二等運轉士免狀ヲ有シ一年以上免許ヲ受ケントスル湖川港内ニ在テ百噸以上ノ汽船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト

湖川港乙種二等運轉士試験

一年以上汽船ニ乗組ミ免許ヲ受ケントスル湖川港内ニ在テ其運航ニ從事シタルコト

丙種船長試験

- 一 丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上若ハ二千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ一等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
 - 二 丙種運轉士免狀ヲ有シ一年以上百噸以上若ハ千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ船長ノ職ヲ執リタルコト
 - 三 丙種運轉士免狀ヲ有シ三年以上三百噸以上若ハ三千石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ二等運轉士ノ職ヲ執リタルコト
- 丙種運轉士試験

四年以上二十噸以上若ハ二百石以上ノ航洋帆船ニ乗組ミ其運航ニ從事シタルコト

機關長試験

- 一 一等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等機關士ノ職ヲ執リタルコト
- 二 一等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上三百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト
- 三 一等機關士ノ免狀ヲ有シ二年以上千噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ二等機關士トシテ執務シタルコト
 - 一等機關士試験
- 一 四年以上三百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事シタルコト
- 二 二等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上二百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ一等機關士ノ職ヲ執リタルコト
- 三 二等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト
- 四 二等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上五百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關士トシテ執務シタルコト
 - 二等機關士試験
- 一 三年以上百噸以上ノ航洋汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事シタルコト
- 二 三等機關士ノ免狀ヲ有シ一年以上五十噸以上ノ汽船ニ乗組ミ機關長ノ職ヲ執リタルコト

三等機關士試験

三年以上汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事シタルコト

湖川港三等機關士試験

一年以上汽船ニ乗組ミ機關運轉ニ從事シタルコト

發動機船三等機關士試験

一年以上蒸氣以外ノ原動力ニ依リテ運轉スル機關ヲ備フル船舶ニ乗組ミ機關運轉ニ從事シタルコト

第四條 前條ニ掲クル船舶ノ噸數ハ總噸數ニシテ石數ハ積石數トス

航洋船舶トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル汽船及帆船、航洋汽船トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル汽船、航洋帆船トハ沿海航路以上ノ航路ヲ航行スル帆船ヲ謂フ

汽船甲種船長試験及汽船甲種一等運轉士試験ノ履歷ニ掲クル甲種一等運轉士免狀及甲種

二等運轉士免狀ニハ效力ヲ汽船ニ限ラレタルモノヲ包含ス又帆船甲種船長試験及帆船甲

種一等運轉士試験ノ履歷ニ掲クル甲種一等運轉士免狀及甲種二等運轉士免狀ニハ效力ヲ

帆船ニ限ラレタルモノヲ包含ス

第五條 遞信大臣ノ允當ト認ムル外國政府ノ免狀ヲ有シテ執職シタル履歷ハ日本政府ノ相

當海技免狀ヲシテ執職シタルモノト看做ス

第六條 遞信大臣ノ允當ト認ムル機關工場ニ在テ汽機汽罐ノ製造又ハ修繕ニ從事シタル期

間ハ第三條ニ定ムル乘船期間ノ半數ニ達スルマテ乘船履歷ニ換算スルコトヲ得

第七條 補助機關ヲ備フル帆船ニ乗組ミタル者ノ履歷ハ甲板部員ニ在テハ帆船乗組ト看做

シ機關部員ノ履歷ハ其乗組員數ノ四分ノ一ニ相當スル期間該船舶ノ總噸數ノ二分ノ一ニ

相當スル汽船ニ乗組ミタルモノトシテ計算ス

第八條 船舶職員法施行細則第二條第四條及第五條ニ掲クル船舶ニ乗組ミタル履歷ハ遞信

大臣ノ認定スル所ニ依リ第三條ニ定ムル履歷タル效力ヲ有ス

第九條 高等ノ試験ヲ受クルコトヲ得ル履歷ヲ有スル者ハ下等ノ試験ヲ受クルコトヲ得

高等ノ職ヲ執リタル履歷ハ下等ノ職ヲ執リタルモノトシテ換算若ハ通算スルコトヲ得

高等ノ免狀ヲ下等ノ免狀ニ代用シテ執職シタル履歷ハ該下等免狀ヲ有シテ執職シタルモ

ノト看做ス

同一ノ試験ニ對シ二種以上ノ受験履歷ヲ有スルモノハ之ヲ通算シテ其内ノ一ニ該當スル

期間ニ滿ツルトキハ相當履歷タル效力ヲ有ス但汽船甲種一等運轉士試験履歷第三號丙種

船長試験履歷第三號及機關長試験履歷第三號ノ乘船履歷ハ其期間ノ半數ヲ以テ他ノ乘船

期間ニ通算スルコトヲ要ス

第十條 遞信大臣ノ允當ト認ムル學校ニ在テ航海科又ハ機關科ヲ卒業シタル者ハ其乘船期

間第三條ノ規定ニ適合セサルモ同大臣ノ認定スル所ニ依リ相當試験ヲ受クルコトヲ得

第十一條 左ニ掲クルモノハ第三條ニ定ムル履歷タル效力ヲ有セス

一 倉庫船又ハ繋留船ニ乗組ミタル履歷

二 年齢十五年未滿ノトキノ履歷

三 明治十二年八月以前ノ履歷

四 主トシテ船舶ノ運航又ハ機關ノ運轉ニ從事セサル職務ノ履歷

第三章 受験申請

第十二條 船舶職員試験ヲ受ケントスル者ハ定期試験ニ在テハ試験期日七日前マテニ臨時

試験ニ在テハ試験期日三日前マテニ試験ヲ行フ管海官廳ニ左ノ書面ヲ差出スヘシ

- 一 第一號書式ノ申請書
 - 二 戸籍ノ謄本若ハ抄本
 - 三 船舶職員法第六條第一號及第二號ニ該當セサルコトノ證明書
 - 四 海技免狀ヲ有スル者ハ其寫
- 前項第二號ノ書類ハ外國人ニ在テハ日本ノ官公署又ハ本國領事ノ證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十三條 履歷ハ左ニ掲クル書類ヲ管海官廳ノ檢閱ニ供シテ之ヲ證明スヘシ

- 一 商船ニ乗組ミタル履歷ハ船員手帖又ハ之ニ準スヘキ證明書
 - 二 海軍艦船艇又ハ官廳若ハ公署ノ所屬船ニ乗組ミタル履歷ハ當該官廳公署ノ辭令書證明書若ハ當該官吏ノ證明書
 - 三 船舶ノ種類、航路及職務ノ執行ニ關シテハ船舶所有者又ハ當該艦船艇長ノ證明書
 - 四 學校若ハ機關工場ニ在リタル履歷ハ當該學校又ハ工場ノ卒業證書若ハ證明書
 - 五 海技免狀受有者ハ該免狀
- 第十四條 受験申請人ハ手数料トシテ體格檢査ニ付テハ二十錢學術試験ニ付テハ左ノ金額ヲ納ムヘシ

- 甲種船長試験
- 汽船甲種船長試験
- 帆船甲種船長試験
- 機關長試験

五圓

甲種一等運轉士試験

汽船甲種一等運轉士試験

帆船甲種一等運轉士試験

乙種船長試験

丙種船長試験

一等機關士試験

甲種二等運轉士試験

汽船甲種二等運轉士試験

帆船甲種二等運轉士試験

乙種一等運轉士試験

湖川港乙種一等運轉士試験

二等機關士試験

乙種二等運轉士試験

湖川港乙種二等運轉士試験

丙種運轉士試験

三等機關士試験

湖川港三等機關士試験

發動機船三等機關士試験

第十五條 手数料ハ其金額ニ相當スル收入印紙ヲ納付書ニ貼用シ體格檢査手数料ハ受験申

請書ト共ニ納メ學術試験手数料ハ學術試験開始ニ先チテ納ムヘシ

一圓

二圓

三圓

前項ニ依リ貼用シタル印紙ハ管海官廳ニ於テ消印スヘキモノトス但納付者ニ於テ自己ノ便宜上消印ヲ爲スハ妨ケナシ
既納手数料ハ事故ノ如何ヲ問ハス之ヲ還付セス

第四章 試驗

第十六條 試驗ハ體格検査及學術試驗トス體格検査ニ合格シタル者ニアラサレハ學術試驗ヲ受クルコトヲ得ス但體格検査ニ合格シ學術試驗ニ合格セザリシ者體格検査ヲ受ケタル日ヨリ百日以内ニ於テ再ヒ同一ノ管海官廳ニ試驗ヲ申請シタルトキハ試驗官吏ノ見込ニ依リ體格検査ヲ省略スルコトアルヘシ
學術試驗ハ筆記試驗及口述試驗トス但湖川港乙種一等運轉士試驗、湖川港乙種二等運轉士試驗、湖川港三等機關士試驗及發動機船三等機關士試驗ニハ筆記試驗ヲ行ハス
筆記試驗ヲ受クヘキ者ハ之ニ合格スルニアラサレハ口述試驗ヲ受グルコトヲ得ス
學術試驗ハ別記ノ科目ニ依リ之ヲ行フ

第十七條 試驗ノ執行ニ關スル手續ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定ム

第十八條 試驗官吏ニ於テ受験人ノ履歷若ハ身分ニ詐欺錯誤アルコト其他受験資格ナキコトヲ發見シタルトキ又ハ試驗ヲ行フ管海官廳ニ於テ定メタル試験ノ手續ニ違背シタルコトヲ認ムルトキハ何時ニテモ其試験ヲ停止スルコトヲ得

前項ニ依リ試験ヲ停止シタル場合又ハ試験終了後ニ於テ受験人ノ受験資格ナキコトヲ發見シタルトキハ其試験ヲ無効トス

第十九條 受験人左ニ掲クル場合ニ於テハ其試験ハ成立セサルモノトス
一 指定ノ試験執行日ニ出場セサルトキ

二 試験ヲ終ハラスシテ退場シタルトキ

三 規定ノ時限ニ答ヲ終ラサルトキ

四 第十八條ノ規定ニ依リ試験ヲ停止セラレタルトキ

第二十條 受験人試験ニ合格シタルトキハ第二號書式ノ合格證書ヲ附與ス
第二十一條 試験合格證書ヲ附與シタル後受験當時受験人ノ受験資格シ有セザリシコトヲ發見シタルトキハ該合格證書ヲ無効トシ之ヲ還納セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ受験人カ合格證書ヲ還納セサルトキハ當該管海官廳ハ其無効ナルコトヲ官報ニ公告スヘシ

第五章 試験停止

第二十二條 左ニ掲クル事項ニ該當スル者ハ最後ノ受験日ヨリ六十日ヲ經過スルニアラサレハ再ヒ試験ヲ申請スルコトヲ得ス但第三號又ハ第四號ニ該當スル者カ下等ノ試験ヲ申請スルハ此限ニ在ラス

一 體格検査ニ合格セサル者

二 第十八條ノ規定ニ依リ試験ヲ停止セラレ又ハ無効トセラレタル者

三 同種試験ノ筆記試験ニ於テ之ニ合格セサルコト又ハ其試験ノ成立セサルコト引續
二回ニ及ヒタル者

四 同種試験ノ口述試験ニ於テ之ニ合格セサルコト又ハ其試験ノ成立セサルコト引續
二回ニ及ヒタル者

前項第三號及第四號ニ於テハ試験不合格ト不成立トハ之ヲ通算ス

第二十三條 前項第一項第四號ニ該當シ試験ノ申請ヲ停止セラレタル者ハ不合格又ハ不成

立ノ事項カ實地船舶ノ運航若ハ機關ノ運轉ニ關スルモノナルトキハ爾後三箇月以上船舶ニ乗組ミタル履歴ヲ有スルニアラサレハ再ヒ試験ヲ受クルコトヲ得ス
前項ノ履歴ニ關シテハ第三條第五條第六條第七條第九條第十一條及第十三條ノ規定ヲ適用ス

附則

- 第二十四條 本規程ハ明治三十八年法律第六十九號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二十五條 明治三十年五月 遞信省令第七號ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
- 第二十六條 明治三十年五月 遞信省令第七號海員試驗規程ニ定ムル受験履歴ニ適合スル履歴ヲ有スル者ハ本規程第三條ノ規定ニ拘ハラヌ明治三十八年十二月三十一日マテ相當試験ヲ受クルコトヲ得

(別記)

試驗科目

甲種船長試驗

- 一 星ノ子午線經過時及子午線高度ノ推算法
- 二 星ノ高度ニ依リ緯度ノ算法
- 三 太陽子午線經過時ノ推算法
- 四 太陽子午線高度ニ依リ緯度ノ算法
- 五 子午線ニ近キ太陽高度ニ依リ緯度ノ算法
- 六 ナビール式自差表作成及用法

甲種一等運轉士試驗及甲種二等運轉士試驗ノ科目ヲ合セ

筆記

- 一 羅針儀附屬及矯正ノ方法
 - 二 假舵及救命筏ノ製作及用法
 - 三 運轉自由ヲ得サル船舶ノ取扱方法
 - 四 船體傾倒及船體應急修繕ノ方法
 - 五 前數號ノ外船長ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 甲種一等運轉士試驗
甲種二等運轉士試驗ノ科目ヲ合セ
- 一 太陽方位角ニ依リ羅針差ノ算法
 - 二 時辰儀及太陽高度ニ依リ經度又ハ時辰儀差ノ算法

口述

- 三 サムナー式算法
 - 四 潮時算法
 - 口述
 - 一 下橋建設其他圖材ノ取扱
 - 二 能及汽船ノ暗重作用
 - 三 帆船ノ荒天運用方法
 - 四 汽船ノ荒天運用方法
 - 五 航海中船具ノ破損其他不慮ノ事態ニ會シ之ヲ處理スル方法
 - 六 海難ニ際シ人命及船ノ救護スル方法
 - 七 颶風ノ説明
 - 八 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 甲種二等運轉士試驗
- 筆記
- 一 普通作文
 - 二 航海ニ關スル用語ノ説明
 - 三 面積積量、比例及對數算法
 - 四 航海ノ計算法
 - 五 緯線航行算法
 - 六 マークートル式又ハ中分緯度式ニ依リ經度緯度若ハ針路航程ノ算法
 - 七 太陽子午線高度ニ依リ緯度ノ算法
 - 八 太陽ノ出沒方位ニ依リ羅針差ノ算法

九 羅針自差ノ算法

十 海圖ノ用法

口述

- 一 船具ノ取附及脫除
 - 二 桅樁及帆架ノ揚降
 - 三 測程具、測深具ノ說明並用法
 - 四 錨、錨鎖其他屬具ノ取扱
 - 五 貨物積載法
 - 六 帆ノ取扱
 - 七 帆船ノ常時運用方法
 - 八 汽船ノ常時運用方法
 - 九 六分儀ノ用法及矯正法
 - 十 羅針自差ノ測定方法
 - 十一 海上衝突豫防法
 - 十二 萬國船舶信號法
 - 十三 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項
- 汽船甲種船長試驗、汽船甲種一等運轉士試驗及汽船甲種二等運轉士試驗ノ各科目ハ前ニ掲ケル相當試驗ノ科目中口述ニ於テ帆船ノ運用ニ關スル事項ヲ除クノ外總テ同一トス
- 帆船甲種船長試驗、帆船甲種一等運轉士試驗及帆船甲種二等運轉士試驗ノ各科目ハ前ニ掲ケル相當試驗ノ科目中口述ニ於テ汽船ノ運用ニ關スル事項ヲ除クノ外總テ同一トス

乙種船長試験

乙種一等運轉士試験及乙種二等運轉士試験ノ科目ヲ合セ

筆記

- 一 太陽子午線高度ニ依リ緯度ノ算法
- 二 太陽出沒方位ニ依リ羅針遠差ノ算法
- 三 潮時算法

口述

- 一 汽船ノ舵及暗車作用
- 二 汽船ノ荒天運用方法
- 三 航海中船具ノ破損其他不慮ノ事起ニ會シ之ヲ處理スル方法
- 四 海難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法
- 五 六分儀ノ用法及矯正法
- 六 風風ノ說明
- 七 前數號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

乙種一等運轉士試験

乙種二等運轉士試験ノ科目ヲ合セ

筆記

- 一 普通作文又ハ文章ノ解讀
- 二 加減乗除應用及面積積算法
- 三 航海日誌算法
- 四 羅針自差ノ算法

口述

- 一 錨、錨鎖其他屬具ノ取扱
- 二 貨物積載法
- 三 帆ノ取扱
- 四 羅針自差ノ測定方法
- 五 萬國船舶信號法
- 六 前數號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

乙種二等運轉士試験

筆記

- 一 航海日誌ノ記載
- 二 海圖ノ用法
- 三 羅針儀ノ說明並用法
- 四 測程具、測深具ノ說明並用法
- 五 汽船ノ常時運用方法
- 六 海上衝突豫防法
- 七 前數號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

湖川港ノ種一等運轉士試験

口述

- 一 舵及推進器ノ作用
- 二 汽船運用方法
- 三 船舶衝突豫防ノ方法

四 船舶ノ航行スヘキ區域ノ地理

五 前數號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

湖川港乙種二等運轉士試験ハ前ニ掲ケル湖川港乙種一等運轉士試験ノ科目ニ依リ小汽船ノ運用方法ニ付テ試験スルモノトス

丙種船長試験

丙種運轉士試験ノ科目ヲ合セ

筆記

- 一 航海日誌算法
- 二 太陽子午線高度ニ依リ緯度ノ算法
- 三 太陽ノ出沒方位ニ依リ羅針遠差ノ算法
- 四 潮時算法
- 五 羅針自差ノ算法

口述

- 一 桅檣及帆架ノ揚降
- 二 帆船 荒天運用方法
- 三 航海中船具ノ破損其他不慮ノ事起ニ會シ之ヲ處理スル方法
- 四 海難ニ際シ人命及船舶ヲ救護スル方法
- 五 六分儀ノ用法及矯正法
- 六 羅針自差ノ測定方法
- 七 風風ノ說明
- 八 前數號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト

認ムル事項

丙種運轉士試験

筆記

- 一 航海日誌ノ記載
- 二 加減乗除應用及面積積算法
- 三 海圖ノ用法

口述

- 一 羅針儀ノ說明並用法
- 二 船具ノ取附及脫除
- 三 測程具、測深具ノ說明並用法
- 四 錨、錨鎖其他屬具ノ取扱
- 五 貨物積載法
- 六 帆ノ取扱
- 七 帆船ノ常時運用方法
- 八 海上衝突豫防法
- 九 萬國船舶信號法
- 十 前數號ノ外水分ノ職務ニ關シ試験官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

機關長試験

一等機關士試験、二等機關士試験及三等機關士試験ノ科目ヲ合セ

筆記

- 一 汽機強力、汽錘強力、螺旋螺距、溫度、蒸氣膨脹、圓材方材、應力、閉立應用問題、汽力圖等ニ關スル

算法

二 汽機汽鍋局部ノ製圖

口述

- 一 熱及汽機汽鍋ニ於ケル熱ノ效力及香
- 二 汽機汽鍋各部ニ要スル諸強力ノ説明
- 三 汽機汽鍋材料ノ説明
- 四 汽機各部ノ摩擦力ト推進力トノ關係
- 五 蒸氣及其膨脹力使用ニ基キ各種汽機比較ノ大要
- 六 汽機ノ動作、汽力器及汽力圖ノ説明
- 七 汽機汽鍋ノ要部及炭盆水器等ノ割合
- 八 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

一等機關士試驗

二等機關士試驗及三等機關士試驗ノ科目ヲ合セ

筆記

- 一 重量、炭質、速力、安全瓣、唧筒、馬力、開平應用問題等ニ關スル算法

口述

- 一 汽機汽鍋各部組成ノ理解
- 二 各種ノ汽機汽鍋構造及利害ノ説明
- 三 各種ノ滑輪、働機及推進器ノ説明
- 四 車軸ノ中心及滑輪位置ノ整調
- 五 馬力ノ説明
- 六 汽機汽鍋ニ屬スル諸器製造ノ理解

七 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

二等機關士試驗

三等機關士試驗ノ科目ヲ合セ

筆記

- 一 普通作文又ハ文章ノ解讀
- 二 分數、小數、比例及面積積算法

口述

- 一 汽機汽鍋組成ノ大要
- 二 汽機ノ毀損シ易キ部分及之ニ對スル注意
- 三 汽鍋ニ腐蝕損壞其他毀損ヲ來ス原因及其豫防方法
- 四 航行中及碇泊中汽機汽鍋ニ要スル注意
- 五 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

三等機關士試驗

筆記

機關日誌ノ記載

口述

- 一 汽機汽鍋検査ノ方法
- 二 汽機汽鍋各部ノ效用
- 三 汽機汽鍋ニ屬スル諸器ノ效用及用法
- 四 汽機汽鍋ノ取扱及運轉方法
- 五 汽機汽鍋ノ損壞ヲ修繕スル方法
- 六 運轉中汽機汽鍋ニ不慮ノ危害ヲ生シタルトキノ處置

七 前數號ノ外本分ノ職務ニ關シ試驗官吏ニ於テ必要ト認ムル事項

湖川港三等機關士試驗

三等機關士試驗ノ科目中筆記試驗及口述試驗中第三號ヲ除ク

發動機船三等機關士試驗

口述

- 二 石油發動機ニ於ケル瓦斯ノ發生、點火ノ裝置及發動ノ理解

(書式)

受験申請書

(試験ノ種類) 試験相受度就テハ履歷書受験資格ニ關スル證明書及戶籍謄本(抄本)相添此段申請候也

明治 年 月 日

現住所 申請人 氏 名 印

該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間 <small>該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間 該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間</small>	該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間	該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間	該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間
該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間	該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間	該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間	該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間
該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間	該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間	該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間	該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間
該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間	該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間	該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間	該充狀ヲ停止セラレタル時ハ其年 月日及停止ノ期間

明治四十二年八月五日印刷
 明治四十二年八月十日發行

定價一圓



著者 船長 豐田 孝太郎

著者兼 船長 堀田 金吾

印刷館 堀田 航盛館

發賣元

大阪市西區九條町五丁目
 千八百八十八番屋敷

堀田 航盛館

○販賣所は全國到る所の有名なる 書籍商にあり

○弊店發賣の出版目錄御入用の節は送料實費郵便切手六錢御送附被下度候らば直に進呈可仕候

● 豐田孝太郎著
● 海員受驗專用 文章及四則 全一冊 送料價金 六貳拾 錢錢

航盛館編輯部編纂
● 帝國法律全書 全一冊 送料價金 拾五拾五 錢錢

河原米三郎著
● 明治書簡文 全一冊 送料價金 八貳拾五 錢錢

鈴木用人著
● 日用はがき用文 全一冊 送料價金 六拾五 錢錢

文學專攻會著
● 帝國書簡文 全一冊 送料價金 拾參拾五 錢錢

● 船長堀田金吾著
● 羅盤圖解 全一冊 送料價金 二拾五 錢錢

● 船長堀田金吾著
● 改正海上衝突豫防法 全一冊 送料價金 貳拾 錢錢

● 船長堀田金吾著
● 那氏自差表 全一冊 送料價金 貳五 錢錢

海士學館校正
● 海上衝突豫防法規則 適用の歌 全一冊 送料價金 四拾五 錢錢

● 船長堀田金吾著
● 新編英語早學び 全一冊 送料價金 六貳拾 錢錢

堀田航盛館發行新刊書目

海事學館校正
土居亮馬君著

◎海員受用語解明 全一册

定價金二十五錢
郵税金四錢

海事學館長豊田高太郎君著

◎海員受用口述問答 全一册

定價金三十錢
郵税金四錢

海事學館長豊田高太郎君著

◎船舶諸帆取扱法 全一册

定價金三十錢
郵税金四錢

船長堀田金吾君著

◎改海上衝突豫防法 全一册

定價金二十錢
郵税金二錢

贊川海州著

◎皇國作文大全 全一册

定價金六貳拾五錢
送料金四拾五

贊川海州著

◎幸福父母新編周易獨占 全一册

定價金四拾五錢
送料金四拾

贊川海州著

◎千支九星性質明解 全一册

定價金四拾錢
送料金四拾

船長堀田金吾著

◎帝國海陸用文大全 全一册

定價金六貳拾五錢
送料金六拾五

附海陸地名表

船長堀田金吾著

◎新案海陸はき用文 全一册

定價金四拾五錢
送料金四拾

贊川海州著

●大日本國語假名遣

全一冊

送料價金 貳五錢五厘

愛世道人著

●陣中の詩歌

全一冊

送料價金 貳參錢五厘

大阪府通譯 高野巽著

●國民警察處罰令早解り

送料價金 貳七

錢錢

附大阪府違警罪自衛路取締規則

航盛館編輯部編纂

●日本六法全書

全一冊

送料價金 八五拾

錢錢

船長堀田金吾著

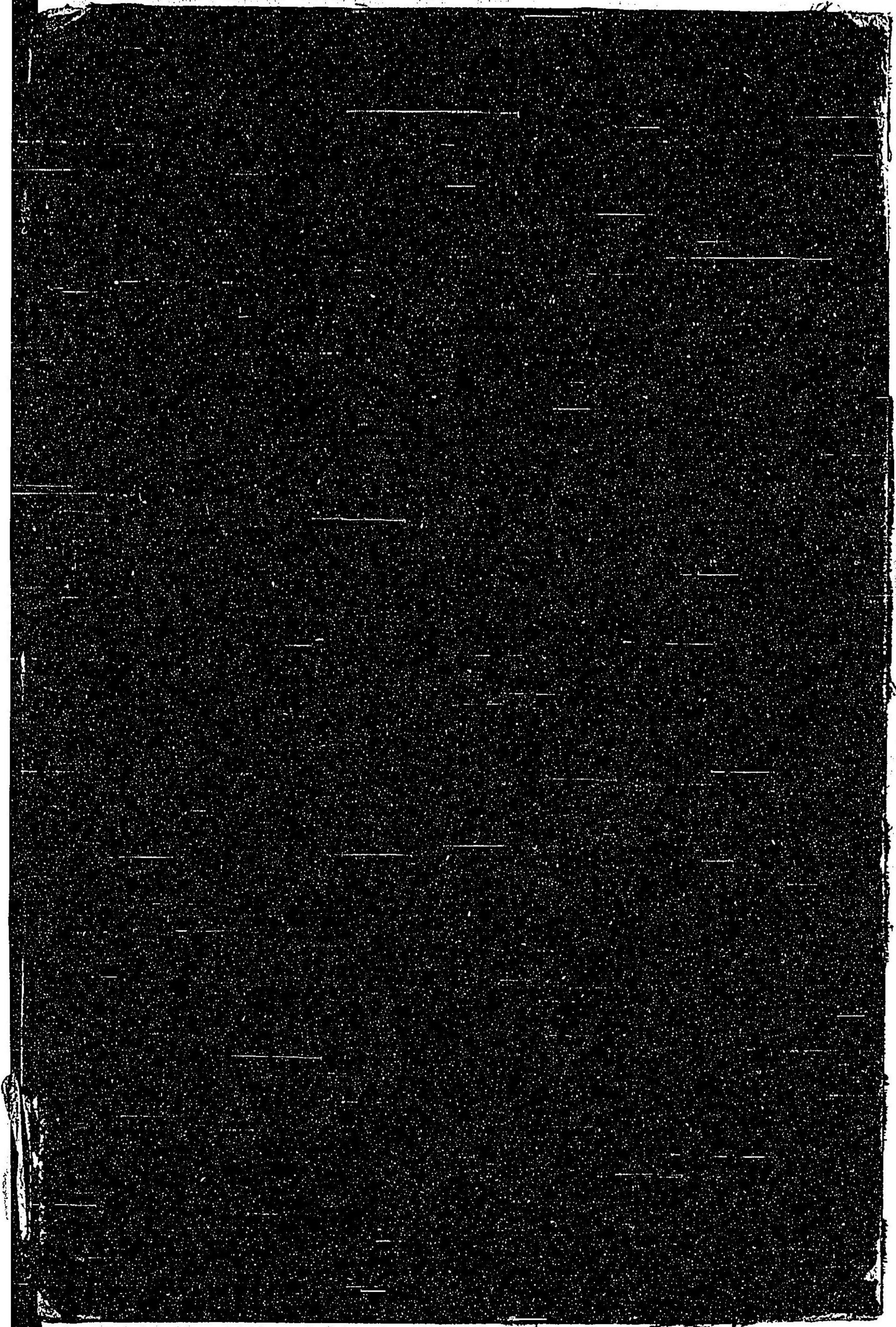
●はがき新用文

全一冊

送料價金 四拾貳

錢錢

328
6



328

6

066968-000-1

328-6

運用全書

豊田 孝太郎/著

M42.8

CDG-0015

